

立ち読み版

「必ずやり遂げる」というストライカー魂
サッカーを軸に切り拓く沖縄活性化の道



Interview

沖縄SV株式会社 代表取締役CEO

たかはら

なおひろ

高原 直泰さん

プロフィール：1979年、静岡県生まれ。県立清水東高校卒業後、1998年にJリーグのジュビロ磐田入団。1999年、U20(20歳以下)代表でFIFAワールドユース選手権準優勝。2000年、シドニー五輪代表。2001年、ボカ・ジュニアーズ(アルゼンチン)へ移籍、翌年ジュビロ磐田に復帰。2002年にはエコノミークラス症候群を発症するも、復帰後、Jリーグで得点王と最優秀選手賞を獲得。2003年に念願の欧州移籍が叶い、ハンブルガーSV(ドイツ・ブンデスリーガ)へ。2006年、ドイツ杯に日本代表で出場。同年7月、アイントラハト・フランクフルト(同ブンデスリーガ)へ移籍し大活躍した。2008年以降は、浦和レッズ、水原三星(韓国)、清水エスパルス、東京ヴェルディ、SC相模原でプレー。2015年12月、沖縄SV株式会社を設立、翌年に沖縄へ移住。

【取材・文】 宮田昌尚 中小企業診断士 【写真提供】 沖縄SV株式会社

— The prologue

サッカー元日本代表FW(フォワード)の高原直泰さんは、現在、沖縄で現役選手を続けながら、地方創生という新しい道を切り拓いている。6年前に設立した沖縄SV(エスファウ)株式会社の代表取締役であり、サッカーチーム「沖縄SV」では選手兼監督としてJリーグ昇格を目指す。

会社はサッカー以外を含めたスポーツクラブの運営から農業や伝統産業まで、地域密着の事業を展開する。選手も地元の人たちと一緒にさまざまな活動

を行う。沖縄の特産物にしようとかを入れるコーヒー栽培は、特に注目を集めている。

新型コロナウイルスの影響は事業進捗の障壁となったが、いかなる状況でも準備が大切であることを知る高原さんだからこそ、着々と計画を前進させている。歴史に残る豪快なシュートで人々を魅了したストライカーに、経営者として地域の期待が集まる。スポーツ産業の振興と地方創生へのストレートな思いを聞かせてもらった。

Interview >>> Naohiro Takahara



「沖縄SV」の選手兼監督としてプレーする高原さん

新天地・沖縄での挑戦

— サッカーを起点にして地方創生に取り組んでいますね。

沖縄の活性化を目指しています。2015年末に「沖縄SV」という会社を設立し、サッカーを中心としたスポーツクラブのほか、農業や伝統産業も手がけて沖縄の新たな魅力の創出を行います。

サッカーチーム「沖縄SV」は選手集めから始め、私が選手と監督を兼ねています。2021年は九州サッカーリーグで2度目の優勝を果たしました。現在の目標は次のステージであるJFL(日本フットボールリーグ)昇格です。さらにその先には、Jリーグ入りを目指します。

スポーツ事業では、サッカー以外にも、ダンススクールの運営やプロゴルファーにトレーナーを派遣するといったことも行っています。

そして、農業は創業当初から事業の1つにすると決めていました。沖縄における1次産業の課題を、スポーツクラブが関わることで少しでも解決できるのではないかと考えたのです。中でもコーヒーに着目しました。日本でコーヒーが栽培できる地域は限られているので、希少な国産コーヒーが事業として

成立すれば特産物になると期待できます。ネスレ日本株式会社と協働で、沖縄で初の大規模な国産コーヒー栽培を目指す「沖縄コーヒープロジェクト」を2019年にスタートしました。私も選手も一緒に農作業を行っています。

— 家を売って沖縄に移住したとのこと。思い切った創業のきっかけをお聞かせください。

もともと内閣府の沖縄総合事務局から、観光、ITに次ぐ3つ目の産業を創出したいという話がありました。それがスポーツ産業だということで、「沖縄に来て、スポーツを軸とした取り組みをやらないか」と言われたのが最初です。

自分自身、これまでサッカーをやってきて、いろいろな恩恵を受けてきたので、恩を社会に返していきたいという思いがあります。年齢も30代後半に差しかかる頃で、非常にやりがいのあることだと決断しました。沖縄に骨を埋めるつもりで、家も車も売ってきました。

— 国際的な展開も考えているそうですね。

沖縄の魅力は、温暖な環境ということ以外に、地理的な「場所」が挙げられます。沖縄を中心にする、東京も香港も距離的にほぼ変わらないのです。アジアとの国際交流にも有利だと考えています。

欧州との交流も検討しています。ドイツのサッカー界に強い人脈を持つトーマス・クロート氏にチームアドバイザーに就いてもらっています。彼は私がドイツ・ブンデスリーガでプレーした頃に代理人を



2021年の九州サッカーリーグで2度目の優勝をした「沖縄SV」